

マネージメント情報

※ リポートブリーダーへの体外受精卵の追い移植…②

<今月末から毎日体外受精卵の新鮮卵供給ができる態勢が整いました>

今週東藻琴の畜産公社にと場卵巣の提供のお願いに行き、認めていただくことになりました。

今後、毎週火曜日は東藻琴、金曜日は釧路の畜産公社からのと場卵巣から体外受精卵の作出が可能になり、毎日新鮮卵での追い移植ができるようになります。

JA の授精師さんたちにはこの体外受精卵の新鮮卵を供給できる状況はお話しているのですが、実際に JA で取り組むということには現在のところ至っていません。

根室管内では一緒に ET の仕事をしている中春別の SC ブリーディングだけが新鮮卵の追い移植を実施しているのが現状です。

一般的に凍結卵と新鮮卵の受胎率の差が 10%あるといわれるのですが、この差の意味を伝えることはなかなか難しいようです。

今後 THMS としましては、この環境を積極的に繁殖管理に取り入れようということになり、顧客のみなさんの農場で希望がありましたら THMS の獣医師がリポートブリーダーに追い移植をするということになりました。

人工授精師の場合は改めて受精卵移植師の資格を取得しなければ移植はできませんが獣医師の場合は関係ありませんので、獣医師であれば誰でも移植可能です。

移植の経験が無い獣医師もいますがみなさんの牛たちが来年も分娩できるように頑張りますのでご理解下さい。

われわれの取り組みの結果が JA の授精師さん達の考えを変えられることができますようにと思っています。

<追い移植をした牛が分娩した時の流れ>

前回追い移植をした牛が分娩した時に遺伝子型の検査を実施したら問題無いと書きましたが追加の検査がありました。

ホルスタインの雌が生まれた時にフリーマーチン検査が義務づけられていることがわかりました。

理由は体外受精卵の胎児が妊娠していてその胎児が雄で妊娠途中に胚死滅が起こっている可能性が否定できないということです。

ということで、

ホルスタインの精液での授精後の追い移植牛がホルスタイン雌を出産した場合の必須の検査は

① 遺伝子検査

② フリーマーチン検査

登録を取っていない牛群の場合は関係ありません。

.....
・連続で紹介していますリポートブリーダーへの追い移植ですが、繁殖障害で廃用になっていく牛たちを一つでも多く、可能な限り次の産次へと繋いでいきたいという願いからおこなっています。今後この技術が広がっていくことをみなさんのご理解の下に進めていきたいと思っています。